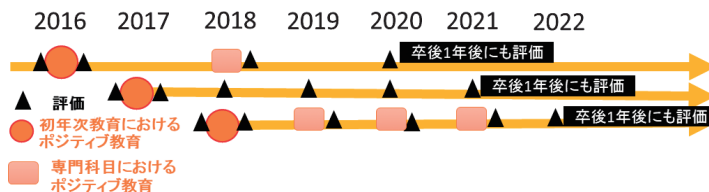


レジリエンス醸成を目指した高等教育課程への ポジティブ教育の導入と縦断的効果検証



「大学全入時代」といわれる現代社会、キャンパス内には精神障害を抱えた学生が散見され、卒後はひきこもり状態にと、いった学生が少なくない。かかる現状を克服するためには、学生のレジリエンスを育成し、学生自らが自身の健康度合い(well-being)を高めていけるような機会を、高等教育機関において設けることが急務である。

金沢工業大学の新生生に対してポジティブ教育を行い、それにより、ポジティブ心理学により明らかにされてきた健康度合いを維持発展させる力、すなわち、レジリエンスの陶冶に貢献できるかどうかを検証し、もって、金沢工業大学における試みを国内に敷衍するための基礎データとする。



研究の全体計画(予定):
2016年度以降、金沢工業大学に入学した新生生を対象にポジティブ教育を行い、その効果を縦断的に明らかにする(左図参照)。

ポジティブ教育を我が国の高等教育機関において初めて実践し、その長期的な有効性を検証する。本研究の成果は、一般社会の多くの年代の人々にも応用可能だと予測される。



松本 かおり 講師・博士(医学)

基礎教育部 修学基礎教育課程

所属研究所：心理科学研究所

Whitworth University卒。静岡大学大学院人文社会科学系研究科臨床心理学専攻修士課程修了。浜松医科大学精神神経科入局。2006年子どものこころの発達研究センターにて浜松母と子の出生コホート研究(HBC-Study)の立ち上げと運営、2013年児童青年期精神医学講座における被災地(福島県)支援を経て、2014年現職。

研究者情報URL

http://www.kanazawa-it.ac.jp/wwwr/lab/lps/activity/activity_practice.html

Keyword

resilience/Positive Education/高等教育/初年次教育/縦断研究